

令和6年9月25日付【日本下水道新聞】

＜新技術活用状況を公表＞

浸入水、雨水管理が最多

新技術活用状況を公表

水コン協

浸入水、雨水管理が最多

全国上下水道コンサルタント協会（岡山一典会長）では、上下水道業界の発展に資する開発・導入等を行った新技術テーマを選定し表彰する、新技術奨励賞制度を運用し

ている。このほど、過去10年間の受賞技術を整理し、研究開発形態やその後の活用状況を調査した結果を公表した。

今年6月に調査を行ったもので、受賞技術10件について開発テーマ、開発会社、特許等の取得状況、研究開発形態（単独・共同）、そして活用状況が取りまとめられている。全10件のうち、下水道関連が8件を占め、浸入水対策および雨水管理をテーマとしたものが5件、焼却炉閉塞防止対策が2件、管路点検調査技術が1件となった。

下水道関連では、「水道池状構造物の戦略的な維持

管理手法（令和2年度、日水コン）が該当。池状施設の点検手法の策定フローや池内防食塗装の必要性判断基準、そしてアセツトマネジメントを取り入れた施設更新時期の設定方法等の知見を取りまとめたもので、現在までに2事業者に向けて提案を実施しているという。各新技術の詳細は、水コン協ウェブサイトを参照。